

宇部市地球温暖化対策ネットワーク 10周年記念にあたり

ネットワーク代表 中西 弘

宇部市地球温暖化対策ネットワーク（UNCCA）は、平成 14 年 10 月に設立され、本年度で 10 周年を迎えることとなりました。設立当初の事務局は宇部市環境共生課でありましたが、平成 17 年 7 月からはネットワーク独自で事務局を持ち現在にいたっています。

ネットワークの事業費は、事務局が独立した平成 17 年には約 322 万円であり、平成 19 年度には 1126 万円に増加して、平成 21 年度から 23 年度には約 2700 万円の規模となりました。現在は地球温暖化防止、環境にやさしい交通づくりやカーボンオフセットの推進事業を中心に活発に活動しており、宇部市地球温暖化対策に対するネットワークの事業は、この 10 年間に順調に発展してきました。



2012 年度総会で挨拶の筆者

このネットワーク設立には、当時の藤田忠夫宇部市長の熱い思いがあったことを改めて思い出されます。宇部市の地球温暖化防止対策に対する藤田前市長の強い熱意が無ければ、山口県内の他都市に先駆けて、このネットワークは設立できなかったでしょう。

またネットワークへの藤田前市長の強い期待は、宇部市が世界の先端を行く地球温暖化対策の実施であり、CO₂の海底への固定技術の開発も話題となりました。

宇部市のような地方都市のNPO組織（UNCCA）では、世界の先端を行く技術開発はとても無理でしたが、藤田前市長の熱い思いは宇部市地球温暖化対策ネットワークに受け継がれています。国や県、あるいは市や民間の地球温暖化防止事業計画への積極的な応募と参入をネットワーク事業の柱としており、この 10 年間も一貫してその姿勢を貫いてきました。このことはネットワークの事業が多くの特約事業によって支えられ、活性化されて来たことを物語っています。また、このためには仰木事務局長をはじめ事務局員の熱心な積極的な活動があったことに改めて感謝しています。

この設立 10 周年を記念して、宇部市地球温暖化対策ネットワークの活動を今後益々充実させていかねばなりません。ネットワークの活動には常に宇部市政の地球温暖化対策との強い連携が必要です。もちろん、ネットワーク自体の積極的な活動が必要なことは当然なことですが、宇部市との連携が無ければネットワークの活動は成り立ちません。このことはネットワークの事業自体に、宇部市の業務を肩代わりしている役割もあることを意味しています。すなわち、宇部市の地球温暖化対策はネットワークの活動と宇部市の活動とは車の両輪であり、宇部市との強い連携の下に今後もネットワークの活動を続けていく所存です。



2008 年 6 月 常盤公園湖水ホール
3 地域協議会合同地球温暖化防止キックオフイベントで山陽小野田・美祢地域代表と「ストップザ温暖化！！コラボレート宣言」をする筆者（左）